

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Machiko SEGAWA, et al.

GAU:

SERIAL NO: New Application

EXAMINER:

FILED: Herewith

FOR: IMAGE RECOGNITION APPARATUS, IMAGE RECOGNITION PROCESSING METHOD, AND  
IMAGE RECOGNITION PROGRAM

REQUEST FOR PRIORITY

COMMISSIONER FOR PATENTS  
ALEXANDRIA, VIRGINIA 22313

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number , filed , is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date(s) of U.S. Provisional Application(s) is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e):  
Application No. Date Filed

- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	2002-267595	September 13, 2002

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number  
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
- ☐ (B) Application Serial No.(s)  
☐ are submitted herewith  
☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,  
MAIER & NEUSTADT, P.C.



Gregory J. Maier

Registration No. 25,599

C. Irvin McClelland  
Registration Number 21,124

Customer Number

22850

Tel. (703) 413-3000  
Fax. (703) 413-2220  
(OSMMN 05/03)

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 2 年 9 月 1 3 日

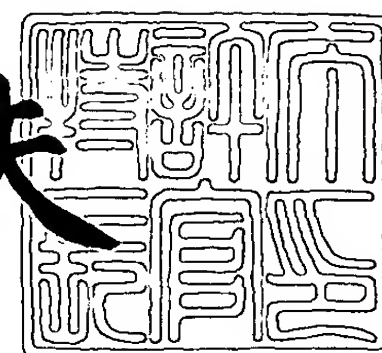
出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 2 - 2 6 7 5 9 5  
[ST. 10/C]: [ J P 2 0 0 2 - 2 6 7 5 9 5 ]

出 願 人  
Applicant(s): ソニー株式会社

2 0 0 3 年 8 月 2 2 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 0290611406

【提出日】 平成14年 9月13日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 15/62 380

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

ソニー株式会社内

【氏名】 瀬川 真智子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

ソニー株式会社内

【氏名】 後藤 太

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

ソニー株式会社内

【氏名】 渡邊 敏博

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区東五反田 2 丁目 1 7 番 1 号

ソニーイーエムシーエス株式会社内

【氏名】 趙 文武

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

ソニー株式会社内

【氏名】 村田 誠

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

ソニー株式会社内

【氏名】 井原 圭吾

## 【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100096699

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 鹿嶋 英實

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 021267

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0010574

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 顔認識装置、顔認識方法および顔認識プログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベース手段と、

前記複数の画像データベース手段の内から顔認識する状況に合致した属性の画像データベース手段を選択する選択手段と、

この選択手段によって選択された属性の画像データベース手段に記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する顔認識手段と

を具備することを特徴とする顔認識装置。

【請求項 2】 前記選択手段は、顔認識が行われる日時に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする請求項 1 記載の顔認識装置。

【請求項 3】 前記選択手段は、顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする請求項 1 記載の顔認識装置。

【請求項 4】 前記選択手段は、顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする請求項 1 記載の顔認識装置。

【請求項 5】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベース手段と、

前記複数の画像データベース手段にそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさで定まる親

密度を記憶する親密度データベース手段と、

撮像画像中から顔検出する顔検出手段と、

この顔検出手段が検出する顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベース手段から検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベース手段から抽出して新規画像データベース手段を作成する作成手段と、

前記新規画像データベース手段に記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であることを認識する顔認識手段とを具備することを特徴とする顔認識装置。

【請求項 6】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの内から顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択する選択過程と、この選択過程にて選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する顔認識過程と

を具備することを特徴とする顔認識方法。

【請求項 7】 前記選択過程は、顔認識が行われる日時に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 6 記載の顔認識方法。

【請求項 8】 前記選択過程は、顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 6 記載の顔認識方法。

【請求項 9】 前記選択手段は、顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 6 記載の顔認識方法。

【請求項 1 0】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ

、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースと、これら複数の画像データベースにそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさなどで定まる親密度を記憶する親密度データベースとを用いて顔認識する方法であり、

撮像画像中から顔検出する顔検出過程と、

この顔検出過程にて検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベースから検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベースから抽出して新規画像データベースを作成する作成過程と、

前記新規画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であることを認識する顔認識過程と

を具備することを特徴とする顔認識方法。

【請求項 1 1】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの内から顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択する選択ステップと、

この選択ステップにて選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する顔認識ステップと

を具備することを特徴とする顔認識プログラム。

【請求項 1 2】 前記選択ステップは、顔認識が行われる日時に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 1 1 記載の顔認識プログラム。

【請求項 1 3】 前記選択ステップは、顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 1 1 記載の顔認識プログラム。

【請求項 1 4】 前記選択ステップは、顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状

況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする請求項 1 1 記載の顔認識プログラム。

【請求項 1 5】 顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースと、これら複数の画像データベースにそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさで定まる親密度を記憶する親密度データベースとを用いて顔認識するプログラムであり、

撮像画像中から顔検出する顔検出ステップと、

この顔検出ステップにて検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベースから検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベースから抽出して新規画像データベースを作成する作成ステップと、

前記新規画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であることを認識する顔認識ステップとを具備することを特徴とする顔認識プログラム。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0 0 0 1】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明は、画像中に写る顔が誰の顔であることを識別して人物同定する顔認識装置、顔認識方法および顔認識プログラムに関する。

##### 【0 0 0 2】

##### 【従来の技術】

画像中に写る顔が誰の顔であることを識別して人物同定する顔認識技術は、個人を識別したり認証するセキュリティ分野に用いられる他、例えば犬等の動物を模した外観形状を有するペットロボットのヒューマンインタフェースにも利用されている。

ヒューマンインタフェースに使用される顔認識技術としては、例えばサポートベクタマシン（SVM）を用いて撮像画像中から人の顔に相当する濃淡パターンをパターン識別して顔検出し、これにて得られる入力顔画像データと、予めデー



データベース登録される各人毎の登録顔画像データとの差分顔固有値展開を行い、差分顔固有値が最も小さい登録顔画像データに対応付けられた人物を撮像画像中に写る人物と同定する手法が知られており、その詳細については例えば特許文献 1 に開示されている。

### 【 0 0 0 3 】

#### 【特許文献 1】

特許公開 2 0 0 2 - 1 5 7 5 9 6 号公報

### 【 0 0 0 4 】

#### 【発明が解決しようとする課題】

ところで、上述した従来の顔認識技術では、登録顔画像データを記憶管理するデータベースに登録されている人数が多くなると、必然的に相似する顔も増えることから誤認識が生じ易くなり認識率低下を招致するという問題がある。

そこで本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、データベース登録される人数が多い場合でも認識率を向上させることができる顔認識装置、顔認識方法および顔認識プログラムを提供することを目的としている。

### 【 0 0 0 5 】

#### 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項 1 に記載の発明は、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベース手段と、前記複数の画像データベース手段の中から顔認識する状況に合致した属性の画像データベース手段を選択する選択手段と、この選択手段によって選択された属性の画像データベース手段に記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する顔認識手段とを具備することを特徴とする。

### 【 0 0 0 6 】

請求項 2 に記載の発明では、前記選択手段は顔認識が行われる日時に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする。

### 【 0 0 0 7 】

請求項 3 に記載の発明では、前記選択手段は顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

請求項 4 に記載の発明では、前記選択手段は顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベース手段の中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベース手段を自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

請求項 5 に記載の発明では、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベース手段と、前記複数の画像データベース手段にそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさで定まる親密度を記憶する親密度データベース手段と、撮像画像中から顔検出する顔検出手段と、この顔検出手段が検出する顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベース手段から検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベース手段から抽出して新規画像データベース手段を作成する作成手段と、前記新規画像データベース手段に記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であることを認識する顔認識手段とを具備することを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

請求項 6 に記載の発明は、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの中から顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択する選択過程と、この選択過程にて選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する顔認識過程とを具備することを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

請求項 7 に記載の発明では、前記選択過程は顔認識が行われる日時に応じて、

前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 2 】

請求項 8 に記載の発明では、前記選択過程は顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

請求項 9 に記載の発明では、前記選択手段は顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの内から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

請求項 1 0 に記載の発明は、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースと、これら複数の画像データベースにそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさで定まる親密度を記憶する親密度データベースとを用いて顔認識する方法であり、撮像画像中から顔検出する顔検出過程と、この顔検出過程にて検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベースから検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベースから抽出して新規画像データベースを作成する作成過程と、前記新規画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であるかを認識する顔認識過程とを具備することを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

請求項 1 1 に記載の発明は、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの内から顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択する選択ステップと、この選択ステップにて選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であるかを

認識する顔認識ステップとを具備することを特徴とする。

【 0 0 1 6 】

請求項 1 2 に記載の発明では、前記選択ステップは顔認識が行われる日時に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 7 】

請求項 1 3 に記載の発明では、前記選択ステップは顔認識が行われる場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

請求項 1 4 に記載の発明では、前記選択ステップは顔認識が行われる日時および場所に応じて、前記複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択することを特徴とする。

【 0 0 1 9 】

請求項 1 5 に記載の発明は、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースと、これら複数の画像データベースにそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさで定まる親密度を記憶する親密度データベースとを用いて顔認識するプログラムであり、撮像画像中から顔検出する顔検出ステップと、この顔検出ステップにて検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベースから検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベースから抽出して新規画像データベースを作成する作成ステップと、前記新規画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であることを認識する顔認識ステップとを具備することを特徴とする。

【 0 0 2 0 】

本発明では、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの中から

顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択し、選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識する。

したがって、データベース登録される人数が多い場合であっても、属性別に画像データベースを細分化するから、1つの画像データベース当りに登録される人数を最適化でき、しかも顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択してそれに基づき顔認識する結果、認識率向上を図ることが可能になる。

### 【0 0 2 1】

#### 【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の一形態について説明する。

#### (1) 概要

図1(a)は、本発明の実施の一形態である縫い包み100の外観を示す外観図である。縫い包み100は、ネコを模したキャラクタ人形であり、その内部には顔認識装置20(後述する)が内蔵される。顔認識装置20は、縫い包み100がユーザの肩に寄せられた状態(同図(b)参照)で「肩寄せモード」として動作し、一方、同図(c)に示すように、ユーザの膝あるいは机の上に寄せられた状態で「膝寄せモード」として動作する。

「肩寄せモード」では撮像した画像中に写る顔が誰の顔であることを識別して人物同定し、その人物の名前をユーザにネコ語(鳴き声)で教えたり、撮像した画像中に写る顔を新たにデータベース登録したり、撮像した画像を、後述するアルバム閲覧処理で表示される画像として順次記録する処理を実行する。

一方、「膝寄せモード」では図1(c)に図示するように、縫い包み100の尻尾部分に設けられたビデオ出力ポート10(後述する)に、外部モニタMのケーブルCAを接続し、上記「肩寄せモード」下で撮像した一連の顔画像を外部モニタMにおいてアルバムとして閲覧させる処理を実行する。これら各モードの処理動作については追って詳述する。

### 【0 0 2 2】

#### (2) 顔認識装置20の構成

次に、図2を参照して顔認識装置20の構成について説明する。図2において

、CPU 1はROM 2に格納される制御プログラム（BIOS）を実行して装置各部の入出力インタフェースを確立させた後、HDD 4（ハードディスク装置）に格納されるOSプログラムをRAM 3にロードして起動させる。OSプログラム起動後、CPU 1はユーザ操作によって実行指示されるアプリケーションプログラムをHDD 4から読み出してRAM 3にロードして実行する。

なお、ここで言うアプリケーションプログラムは、後述する「データベース選択処理」、「人物登録処理」および「名前お知らせ処理」などから構成されるメインルーチンを含む。

### 【0 0 2 3】

RAM 3は、各種プログラムデータを格納するプログラムエリア、CPU 1の演算結果を一時記憶するワークエリアおよびCCDカメラ7によって撮像される画像を一時記憶する画像データエリアを備える。HDD 4は、各種プログラムを記憶すると共に、各種データベース、テーブルデータおよび音声ファイルを記憶する。

### 【0 0 2 4】

HDD 4に記憶される各種データベースとは、顔認識時に参照される複数の画像データベースIDBおよび親密度データベースFDBを指す。複数の画像データベースIDBとは、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶するデータベースである。

具体的には、例えば図3に図示する一例のように、ユーザが勤務する会社に属する人物（上司や同僚、部下など）の顔画像を登録した画像データベースIDB 1や、友人・知人の顔画像を登録した画像データベースIDB 2等、ユーザの公私にわたる人間関係を属性別に分けて人物の顔画像を登録したデータベースである。

これら画像データベースIDBは、後述するように、顔認識が行われる状況に応じて自動的に選択される。各画像データベースIDBは、少なくとも認識IDと、それに対応付けられた人物の顔画像データとから構成されるレコードを複数記憶管理する。認識率の低下を避けるため、1つの画像データベース当り10人程度の顔画像データを登録することが好ましい。



**【 0 0 2 5 】**

親密度データベース F D B とは、各画像データベース I D B と連係するリレーショナルデータベースであって、各画像データベース I D B に登録された人物の認識 I D 毎の親密度、認識回数および顔領域の大きさ（平均値）を記憶管理するものであり、その一例を図 4 に示す。

ここで言う親密度とは、顔認識された人物の顔領域の大きさおよび認識回数に応じて定まる値である。例えば、図 1 1 （ a ） に示す様に認識した顔領域 A 1 が大きく、かつ同一人物として認識した回数も多ければ、ユーザと親密な関係にあるとして親密度が高く、これに対し、例えば図 1 1 （ b ） に示す様に顔領域 A 2 が小さく、かつ同一人物として認識した回数も少なければ、ユーザとあまり親密な関係でないとして親密度が低くなるよう定義されている。

**【 0 0 2 6 】**

H D D 4 に記憶されるテーブルデータとは、データベース選択テーブル D S T および名前お知らせテーブル N I T を指す。データベース選択テーブル D S T は、現在日時およびユーザが現在居る場所に応じて、上述した複数の画像データベース I D B のいずれを選択するかを指定するテーブルデータである。

このデータベース選択テーブル D S T では、日時および場所に対応させてユーザが任意に指定値を登録することが可能になっており、例えば日時が平日の日中で場所が会社である場合には上述の画像データベース I D B 1 を選択する指定値を登録し、日時が土曜日または日曜日で場所を特定しない場合には上述の画像データベース I D B 2 を選択する指定値を登録する。

名前お知らせテーブル N I T とは、顔認識にて同定された人物の認識 I D と、音声ファイルとを対応付けたテーブルデータであり、同定された人物の認識 I D に対応する音声ファイルを選択する際に用いられる。

**【 0 0 2 7 】**

サウンドシステム 5 は、C P U 1 が再生指示する音声ファイルから P C M 波形データを読み出し、それを D / A 変換して音声出力する。マウス 6 は、ユーザ操作に応じたポインティング信号やスイッチイベントを発生するものであり、縫い包み 1 0 0 （図 1 参照）の右手部分 R H に設けられる。C C D カメラ 7 は、縫い

包み 1 0 0 の左目部分 L E に設けられ、C P U 1 の制御の下に撮像して画像データを発生する。位置検出部 8 は、C P U 1 の制御の下に G P S 信号を受信して位置データを発生する。

#### 【 0 0 2 8 】

モード切替スイッチ 9 は、縫い包み 1 0 0 の腰部に設けられ、腰の曲げ伸ばしに応じたモード切替イベントを発生する。すなわち、図 1 ( b ) に図示するように、縫い包み 1 0 0 がユーザの肩に寄せられた場合には「肩寄せモード」を表すスイッチイベントを発生し、同図 ( c ) に示すように、ユーザの膝あるいは机の上に乗せられた場合には「膝寄せモード」を表すスイッチイベントを発生する。ビデオ出力ポート ( V G A コネクタ ) 1 0 は、縫い包み 1 0 0 の尻尾に設けられ、表示制御信号を出力する。

なお、マウス 6 、 C C D カメラ 7 、モード切替スイッチ 9 およびビデオ出力ポート 9 以外の構成要件は装置本体として縫い包み 1 0 0 の胴体部分に内蔵されるようになっている。

#### 【 0 0 2 9 】

##### ( 3 ) 顔認識装置 2 0 の動作

次に、図 5 ～図 9 を参照して上記構成による顔認識装置 2 0 の動作について説明する。以下では、最初にメインルーチンの動作について説明した後、そのメインルーチンを構成するデータベース選択処理、人物登録処理および名前お知らせ処理の各動作を説明する。

#### 【 0 0 3 0 】

##### ①メインルーチンの動作

ユーザが装置電源を投入して図 5 に図示するメインルーチンを実行させると、顔認識装置 2 0 は、ステップ S A 1 に処理を進め、「肩寄せモード」下にあるか否かを判断する。ここで、図 1 ( b ) に図示したように、縫い包み 1 0 0 がユーザの肩に寄せられていると、モード切替スイッチ 9 が「肩寄せモード」を表すスイッチイベントを発生するので、判断結果は「 Y E S 」となり、ステップ S A 2 に進む。

ステップ S A 2 では、C C D カメラ 7 に対して撮像実行を指示し、続くステッ



プ S A 3 では、撮像した画像中から人の顔に相当する濃淡パターンをパターン識別して顔検出する。次いで、ステップ S A 4 では、顔画像の撮像条件（人物撮影条件）を満たしているか否か、すなわち先に撮像した画像中から検出した顔領域が所定の大きさを超えているかどうかを判断する。

#### 【 0 0 3 1 】

撮像した画像中から検出した顔領域が所定の大きさを超えていなければ、撮像条件を満たしていないとして判断結果は「N O」となり、上記ステップ S A 2 に処理を戻す。以後、撮像した画像中から検出した顔領域が所定の大きさを超えるまで撮像および顔検出を随時繰り返す。

そして、撮像した画像中から検出した顔領域が所定の大きさを超えて撮像条件を満たすと、ステップ S A 4 の判断結果が「Y E S」となり、顔画像を取得すべく C C D カメラ 7 に対して撮像実行を指示する。これにより得られる顔画像データは、いったん R A M 3 の画像データエリアに一時記憶される。

なお、上記ステップ S A 4 では、撮像した画像中から検出した顔領域が所定の大きさを超えているか否かを撮像条件としたが、これに限らず、例えば顔検出してから一定時間経過後に対象人物の顔画像を撮像する態様としても構わない。

#### 【 0 0 3 2 】

さて、こうして顔画像データを取得すると、顔認識装置 2 0 はステップ S A 6 に処理を進め、データベース選択処理を実行する。データベース選択処理では、H D D 4 に格納される複数の画像データベース、すなわちユーザの公私にわたる人間関係を属性別に分け、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ登録した複数の画像データベースの内から、顔認識する場面に最も適する属性の画像データベースを選択する。具体的には、現在の日時およびユーザが現在居る場所に応じて、前述したデータベース選択テーブル D S T から該当する画像データベースを選択する。

次に、ステップ S A 7 ではユーザが縫い包み 1 0 0 の右手部分 R H に設けられたマウス 6 の右ボタンをクリックして登録指示イベントを発生させた場合に人物登録処理を実行する。この処理では、上記ステップ S A 5 にて撮像した顔画像データに新規認証 I D を付与して、上記ステップ S A 6 にて選択された画像データ

ベースに新規登録したり、名前お知らせテーブル N I T に新規認識 I D に対応する音声ファイルをアサインする。

### 【 0 0 3 3 】

ステップ S A 8 では、上記ステップ S A 6 にて選択された画像データベースに登録される各人毎の登録顔画像データと撮像して得られた顔画像データとの差分顔固有値展開を行い、差分顔固有値が最も小さい登録顔画像データに対応付けられた人物を撮像画像中に写る人物と同定する顔認識処理を実行する。

次いで、ステップ S A 9 では、顔認識結果に基づき、前述した親密度データベース F D B の内容を更新する。すなわち、顔認識にて同定された人物の認識 I D に対応する親密度を認識回数および顔領域の大きさ（平均値）に応じて更新する。また、このステップ S A 9 では、顔認識が完了した顔画像データを R A M 3 の画像データエリアから読み出して H D D 4 のアルバムフォルダ下に格納する。

### 【 0 0 3 4 】

なお、親密度を更新する態様としては、上記ステップ S A 9 の処理に限らず、時間の概念を採り入れることも可能である。すなわち、図 4 に図示した親密度データベース F D B において、顔認識された日時もデータベース項目として記憶管理しておき、前回顔認識した日時と今回顔認識した日時とから認識間隔を求め、求めた認識間隔が短ければ親密度を上げ、長ければ親密度を下げるようにすることもできる。

### 【 0 0 3 5 】

次に、ステップ S A 1 0 では、ユーザが縫い包み 1 0 0 の右手部分 R H に設けられたマウス 6 の左ボタンをクリックして名前お知らせ指示イベントを発生させた場合に名前お知らせ処理を実行する。この処理では、名前お知らせテーブル N I T を参照して、顔認識にて同定された人物の認識 I D に対応する音声ファイルを選択して再生する。

この後、前述のステップ S A 1 に処理を戻し、以後、ユーザが縫い包み 1 0 0 を肩に乗せている状態ではステップ S A 2 ～ S A 1 0 から構成される肩乗せモードの動作を繰り返す。

### 【 0 0 3 6 】

そして、図 1 (c) に図示したように、縫い包み 1 0 0 の尻尾部分に設けられたビデオ出力ポート (V G A コネクタ) 1 0 に、外部モニタ M のケーブル C A に接続した状態で、その縫い包み 1 0 0 をユーザの膝に乗せたりあるいは机に乗せると、モード切替スイッチ 9 が「膝乗せモード」を表すスイッチイベントを発生するので、ステップ S A 2 の判断結果が「N O」となり、ステップ S A 1 1 に進み、アルバム閲覧処理を実行する。

#### 【 0 0 3 7 】

アルバム閲覧処理では、図 6 に図示するアルバム閲覧ウインドウ W を生成し、外部モニタ M に表示する。このアルバム閲覧ウインドウ W は、H D D 4 のアルバムフォルダ内に格納された顔画像データをインデックス表示 (サムネイル表示) するもので、これらインデックス表示された中から選択された顔画像データにフレーム (画面枠) を付加して一画面表示させる機能も有している。

例えば、アルバム閲覧ウインドウ W 内の日付指定ボタン 2 0 をマウス操作でクリックすると、H D D 4 のアルバムフォルダ内に格納された全ての顔画像データに対応した撮影日付のリストが日付リストウインドウ 2 1 に表示される。

#### 【 0 0 3 8 】

一方、アルバム閲覧ウインドウ W 内の人物指定ボタン 2 2 をマウス操作でクリックすると、H D D 4 のアルバムフォルダ内に格納された全ての顔画像データに対応した人物 I D (例えば、0 0 1, 0 0 2, 0 0 3, …等) のリストが人物リストウインドウ 2 3 に表示される。

これら日付リストウインドウ 2 1 に表示された任意の日付、または人物リストウインドウ 2 3 に表示された任意の人物 I D をマウス操作でクリックして指定した後、表示ボタン 2 4 をマウス操作でクリックすると、該当する日付もしくは人物 I D に対応する顔画像データが H D D 4 から読み出され、インデックス画像 P 1, P 2, P 3, P 4 としてサムネイル表示エリア 2 5 に一覧表示される。

#### 【 0 0 3 9 】

さらに、このサムネイル表示エリア 2 5 に一覧表示されたインデックス画像 P 1, P 2, P 3, P 4 の中から任意の画像をマウス操作でクリックして指定すると、選択された顔画像データにフレームを付加した画像を表示する。

その際、画面表示する顔画像データの認識 I D に基づき親密度データベース F D B から該当人物の親密度を検索し、検索した親密度に対応したフレーム（画面枠）を選択する。例えば、親密度が高い人物の顔画像データを画面表示する場合には、図 12（a）に示す様に華やかなフレームを付与し、一方、親密度が低い人物の顔画像データを画面表示する場合には図 12（b）に示す様に暗い感じのフレームを付与する等のエンターテイメント性を提供するようになっている。

#### 【0040】

##### ②データベース選択処理の動作

次に、図 7 を参照してデータベース選択処理の動作について説明する。上述したステップ S A 6 を介して本処理が実行されると、顔認識装置 20 は図 7 に示すステップ S B 1 に処理を進め、稼働中の O S プログラム側から現在の日時データを取得する。次いで、ステップ S B 2 に進み、現在日時に対応する予定の有無を判断する。すなわち、常駐ソフトウェアとして稼働しているスケジュール帳（スケジュール管理ソフト）に、現在日時に対応した予定が登録されているかどうかを判断する。

そして、現在日時に対応した予定が登録されていれば、判断結果は「Y E S」となり、次のステップ S B 3 に処理を進め、スケジュール帳に設定されているデータベース指定値に対応した画像データベースを選択する。

#### 【0041】

一方、現在日時に対応した予定がスケジュール帳に登録されていない場合には、上記ステップ S B 2 の判断結果が「N O」となり、ステップ S B 4 に進む。ステップ S B 4 では、位置検出部 8 が発生する G P S 位置情報から現在の場所を決定する。なお、G P S 信号を受信できず現在の場所を特定できない状態では、G P S 信号をロストした時点（例えば、屋内に入った時など）の G P S 位置情報に基づき現在の場所を決定する。

続いて、ステップ S B 5 では、現在の日時およびユーザが現在居る場所に応じて、前述したデータベース選択テーブル D S T から該当する画像データベースを選択する。これにより、顔認識する場面に最も適合した属性の画像データベースが選択される。具体的には、例えば日時が平日の日中で場所が会社であれば、前

述の画像データベース I D B 1 が選択され、日時が土曜日または日曜日で場所を特定しない場合には前述の画像データベース I D B 2 が選択される。

#### 【 0 0 4 2 】

##### ③人物登録処理の動作

次に、図 8 を参照して人物登録処理の動作について説明する。前述したステップ S A 7 を介して本処理が実行されると、顔認識装置 2 0 は図 8 に示すステップ S C 1 に処理を進め、登録指示イベントの有無を判断する。登録指示イベントが無ければ、判断結果は「N O」となり、何も処理せずにメインルーチン（図 3 参照）に復帰する。

一方、ユーザが縫い包み 1 0 0 の右手部分 R H に設けられたマウス 6 の右ボタンをクリックして登録指示イベントを発生させると、判断結果が「Y E S」となり、次のステップ S C 2 に処理を進める。ステップ S C 2 では、メインルーチンのステップ S A 5 において撮像した顔画像データに新規認証 I D を付与して、上記データベース選択処理にて選択された画像データベースに新規登録する。

#### 【 0 0 4 3 】

次いで、ステップ S C 3 では、登録終了指示イベントが発生するまで待機する。そして、ユーザが縫い包み 1 0 0 の右手部分 R H に設けられたマウス 6 の右ボタンを再度クリックして登録終了指示イベントを発生させると、判断結果が「Y E S」となり、ステップ S C 4 に進む。

ステップ S C 4 では、名前お知らせテーブル N I T 中の未使用の音声ファイルに、新規認識 I D を対応付けて登録する。そして、ステップ S C 5 では、その新規認識 I D に対応付けた音声ファイルを再生する。これにより、画像データベースに新規登録された人物の名前を知らせる音声ファイルの内容（例えば「にゃ〜ん」というネコの鳴き声）がユーザに通知される。

#### 【 0 0 4 4 】

##### ④名前お知らせ処理の動作

次に、図 9 を参照して名前お知らせ処理の動作について説明する。前述したステップ S A 1 0 を介して本処理が実行されると、顔認識装置 2 0 は図 9 に示すステップ S D 1 に処理を進め、名前お知らせ指示イベントの有無を判断する。名前

お知らせ指示イベントが無ければ、判断結果は「NO」となり、何も処理せずにメインルーチン（図 5 参照）に復帰する。

一方、ユーザが縫い包み 1 0 0 の右手部分 R H に設けられたマウス 6 の左ボタンをクリックして名前お知らせ指示イベントを発生させると、判断結果が「YES」となり、ステップ S D 2 に進み、名前お知らせテーブル N I T を参照して、顔認識にて同定された人物の認識 I D に対応する音声ファイルを選択して再生する。これにより、縫い包み 1 0 0 は顔認識にて同定された人物の名前をネコ語（鳴き声）で知らせる。

#### 【 0 0 4 5 】

以上のように、本実施の形態によれば、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性、言い換えればユーザの公私にわたる人間関係を日時あるいは場所などの属性別に分け、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ登録した複数の画像データベースを設けておき、これら画像データベースの内から顔認識する場面に最も適する属性の画像データベースを選択し、選択した画像データベースを参照して撮像画像シーン中に写る顔が誰の顔であるかを識別して人物同定するようになっている。

この為、データベース登録される人数が多い場合であっても、属性別に画像データベースを細分化するから、1 つの画像データベース当りに登録される人数を最適化でき、しかも顔認識する場面に最も適合する属性の画像データベースを選択してそれに基づき顔認識する結果、認識率向上を図ることが可能になる。

#### 【 0 0 4 6 】

##### （ 4 ）変形例

上述した実施の一形態では、縫い包み 1 0 0 に顔認識装置 2 0 を内蔵させて撮像画像シーン中に写る顔が誰の顔であるか人物同定し、同定した人物の名前を知らせるようにしたが、本発明の要旨はこうした態様に限定されず種々変形が可能である。

例えば図 1 0 に示すように、縫い包み 1 0 0 に替えて顔認識装置 2 0 の本体部分をショルダーバック B に収納し、マウス 6 や C C D カメラ 7 を当該バックのショルダーベルト S B に配設させる形態にすることもできる。



**【 0 0 4 7 】**

また、本実施の一形態では、日時あるいは場所に応じて、顔認識する場面に最も適する画像データベースを選択するようにしたが、これに限らず、前述した親密度データベース F D B（図 4 参照）を用いて顔認識する場面に適した画像データベースを作成することも可能である。

すなわち、顔検出時に得られる顔領域の大きさに基づき、その顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物の認識 I D を親密度データベース F D B から検索し、検索した認識 I D に対応する登録顔画像データを各画像データベースから抽出して新たな画像データベースを作成し、それを用いて顔認識すれば、撮像画像中から検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物に限定して顔認識が行われる為、認識率向上を図ることができる。

**【 0 0 4 8 】**

さらに、本発明の要旨は、上述の実施の形態のみならず、撮像機能や G P S 位置検出機能を備えた携帯電話もしくは撮像機能、G P S 位置検出機能および無線通信機能を有する携帯端末にも適用可能である。その場合、携帯電話あるいは携帯端末は C P U の演算処理能力が充分でないものが多い為、端末側で撮像した画像および撮像位置を、ネットワークを介して顔認識処理するサーバ側へ送出し、サーバ側が顔認識した結果を端末側に返送する形態とすれば良い。

**【 0 0 4 9 】****【発明の効果】**

請求項 1， 6 および 1 1 に記載の発明によれば、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースの内から顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択し、選択された属性の画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像された画像中に写る顔が誰の顔であることを認識するので、データベース登録される人数が多い場合であっても、属性別に画像データベースを細分化するから、1 つの画像データベース当りに登録される人数を最適化でき、しかも顔認識する状況に合致した属性の画像データベースを選択してそれに基づき顔認識する結果、認識率向上を図ることができる。

請求項 2, 7 および 12 に記載の発明によれば、顔認識が行われる日時に応じて、複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択するので、ユーザが選択操作を行わずとも認識率を向上させることができる。

請求項 3, 8 および 13 に記載の発明では、顔認識が行われる場所に応じて、複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択するので、ユーザが選択操作を行わずとも認識率を向上させることができる。

請求項 4, 9 および 14 に記載の発明では、顔認識が行われる日時および場所に応じて、複数の属性毎に設けられた画像データベースの中から顔認識する状況に最も適する属性の画像データベースを自動的に選択するので、ユーザが選択操作を行わずとも認識率を向上させることができる。

請求項 5, 10 および 15 に記載の発明では、顔認識が行われる状況に対応した複数の属性毎に設けられ、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ記憶する複数の画像データベースと、これら複数の画像データベースにそれぞれ登録される人物毎の情報であって、少なくとも顔認識した回数と顔検出時に得られる顔領域の大きさなどで定まる親密度を記憶する親密度データベースとを用い、撮像画像中から検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物を、前記親密度データベースから検索し、検索した人物の顔画像を前記複数の画像データベースから抽出して新規画像データベースを作成した後、その新規画像データベースに記憶される人物の顔画像を参照して、撮像画像中から顔検出された人物の顔画像が誰の顔であるかを認識するので、データベース登録される人数が多い場合であっても、属性別に画像データベースを細分化するから、1つの画像データベース当りに登録される人数を最適化でき、しかも撮像画像中から検出される顔領域の大きさに対応した親密度を有する人物に限定して顔認識する結果、認識率向上を図ることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

本発明による実施の一形態である縫い包み 100 の外観およびその動作モード



を説明するための図である。

【図 2】

顔認識装置 2 0 の構成を示すブロック図である。

【図 3】

画像データベース I D B 1, I D B 2 の概念を示す概念図である。

【図 4】

親密度データベース F D B の概念を示す概念図である。

【図 5】

メインルーチンの動作を示すフローチャートである。

【図 6】

アルバム閲覧処理に画面表示される G U I 画面の一例を示す図である。

【図 7】

データベース選択処理の動作を示すフローチャートである。

【図 8】

人物登録処理の動作を示すフローチャートである。

【図 9】

名前お知らせ処理の動作を示すフローチャートである。

【図 1 0】

変形例を示す図である。

【図 1 1】

親密度の定義を説明するための図である。

【図 1 2】

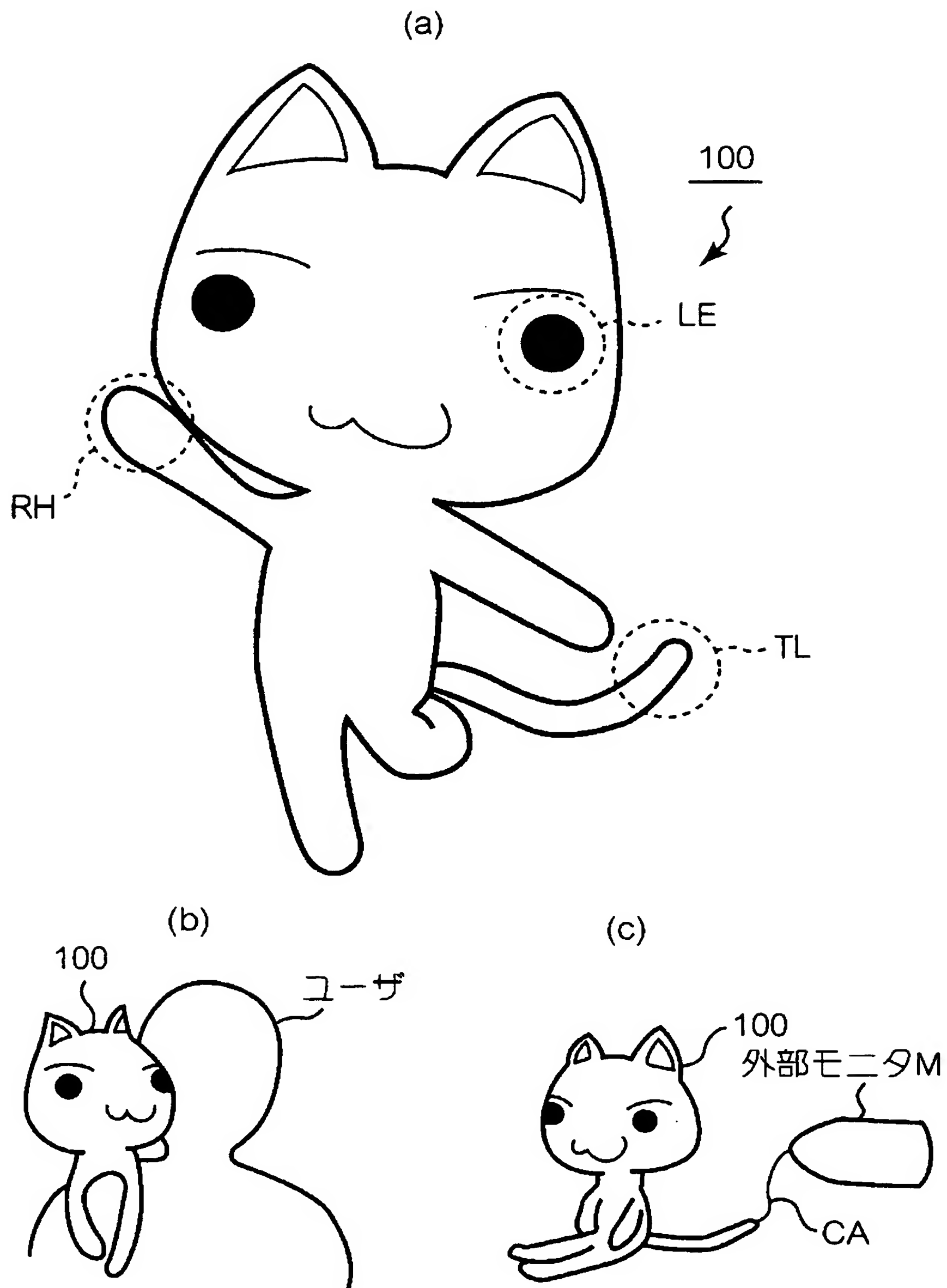
アルバム閲覧処理にて画面表示される顔画像データに付加されるフレームの一例を示す図である。

【符号の説明】

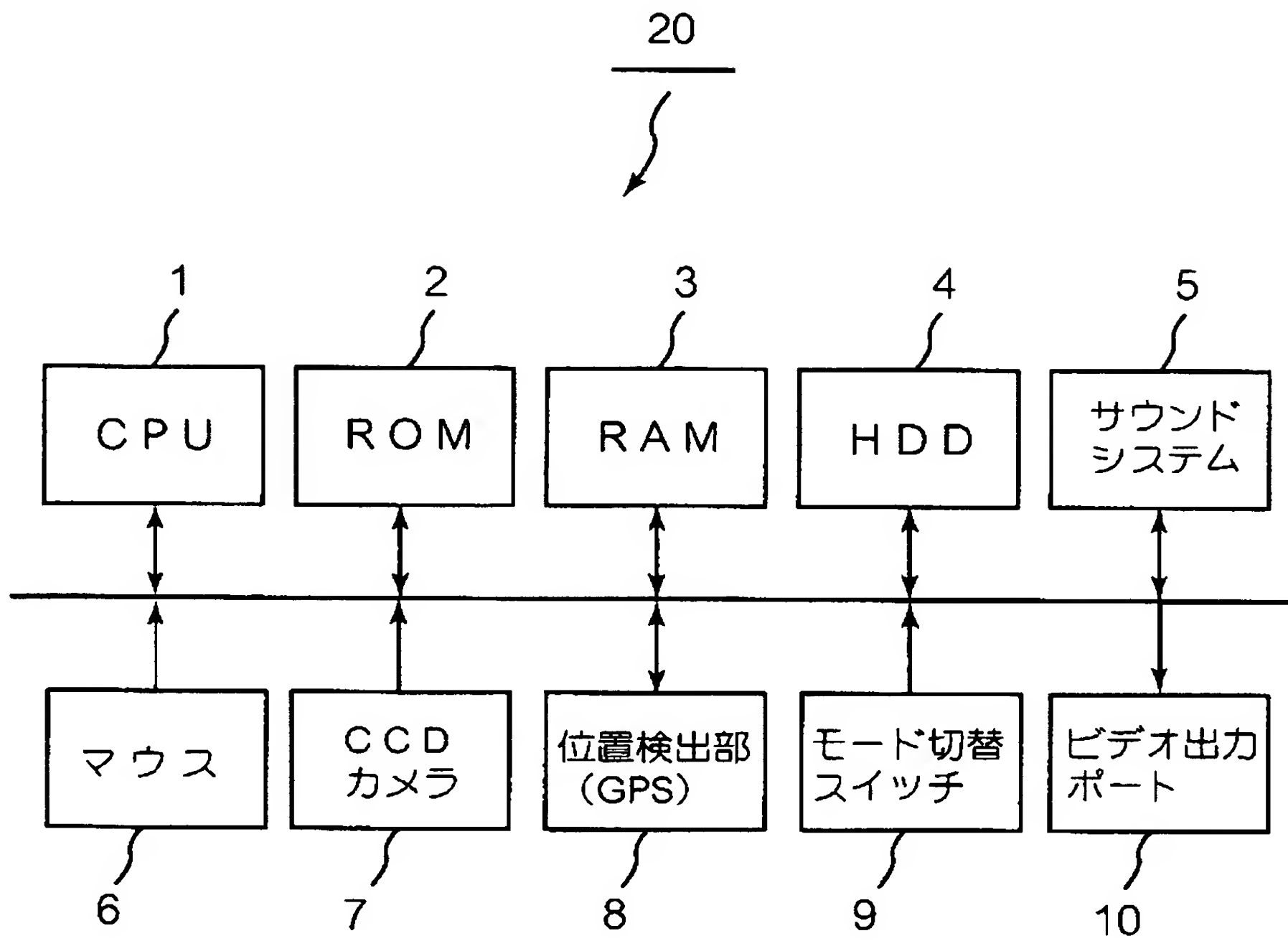
1…C P U、2…R O M、3…R A M、4…H D D、5…サウンドシステム、  
6…マウス、7…C C D カメラ、8…位置検出部、9…モード切替スイッチ、1  
0…ビデオ出力ポート、2 0…顔認識装置、1 0 0…縫い包み。

【書類名】 図面

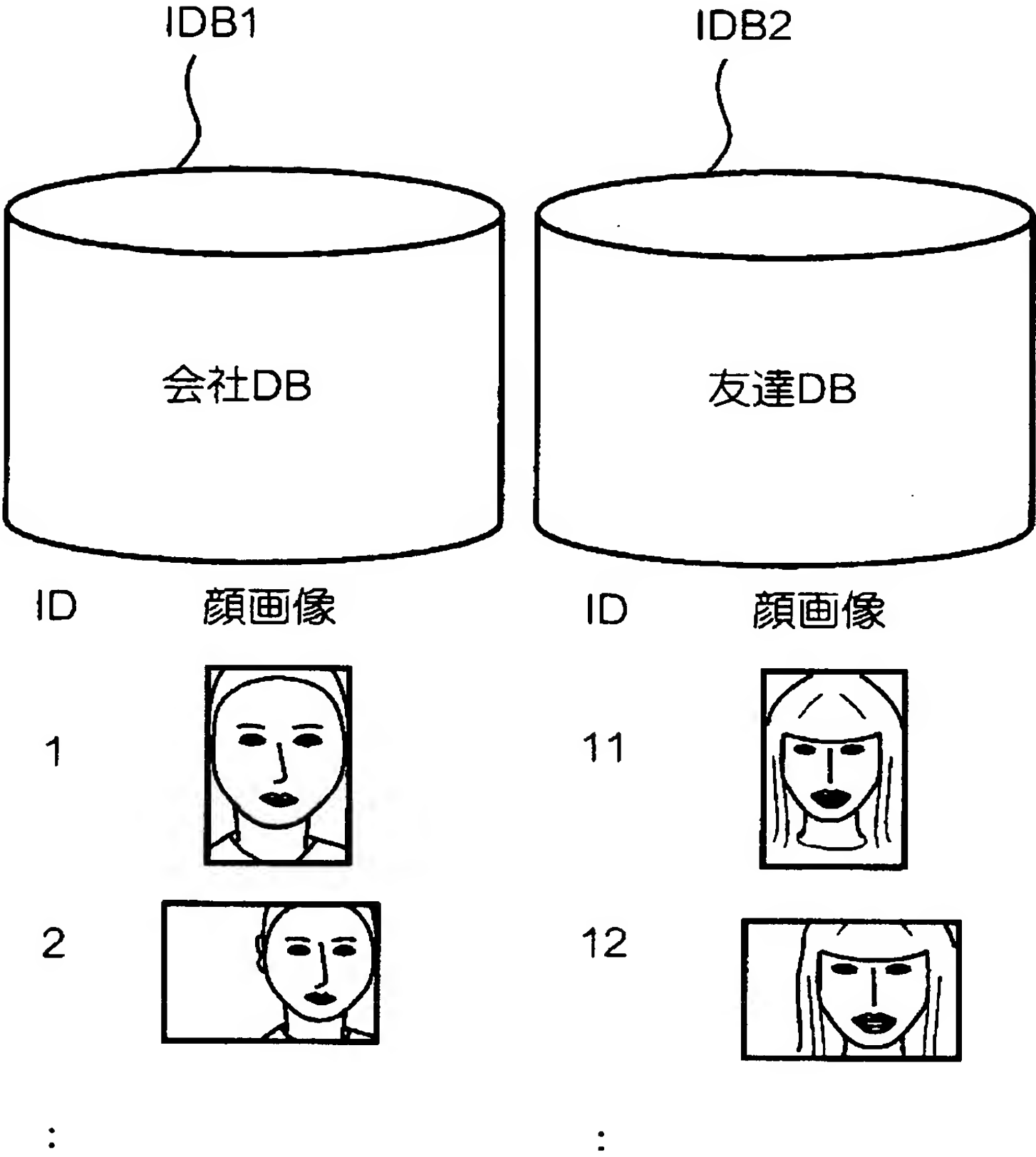
【図 1】



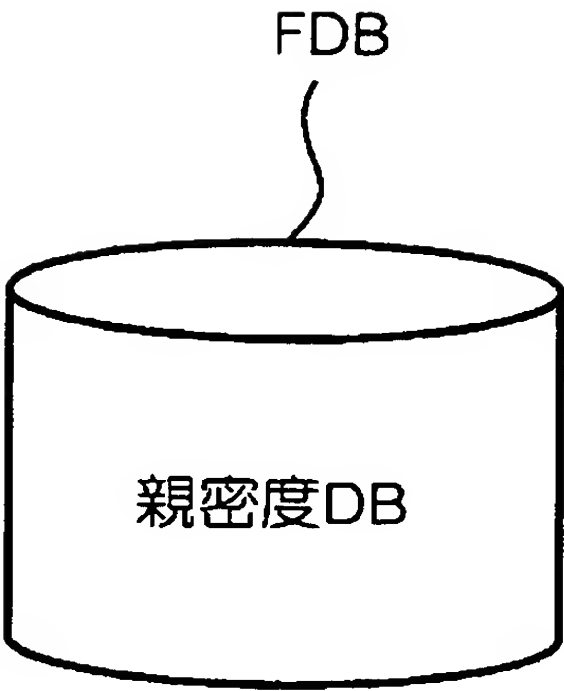
【図 2】



【図 3】

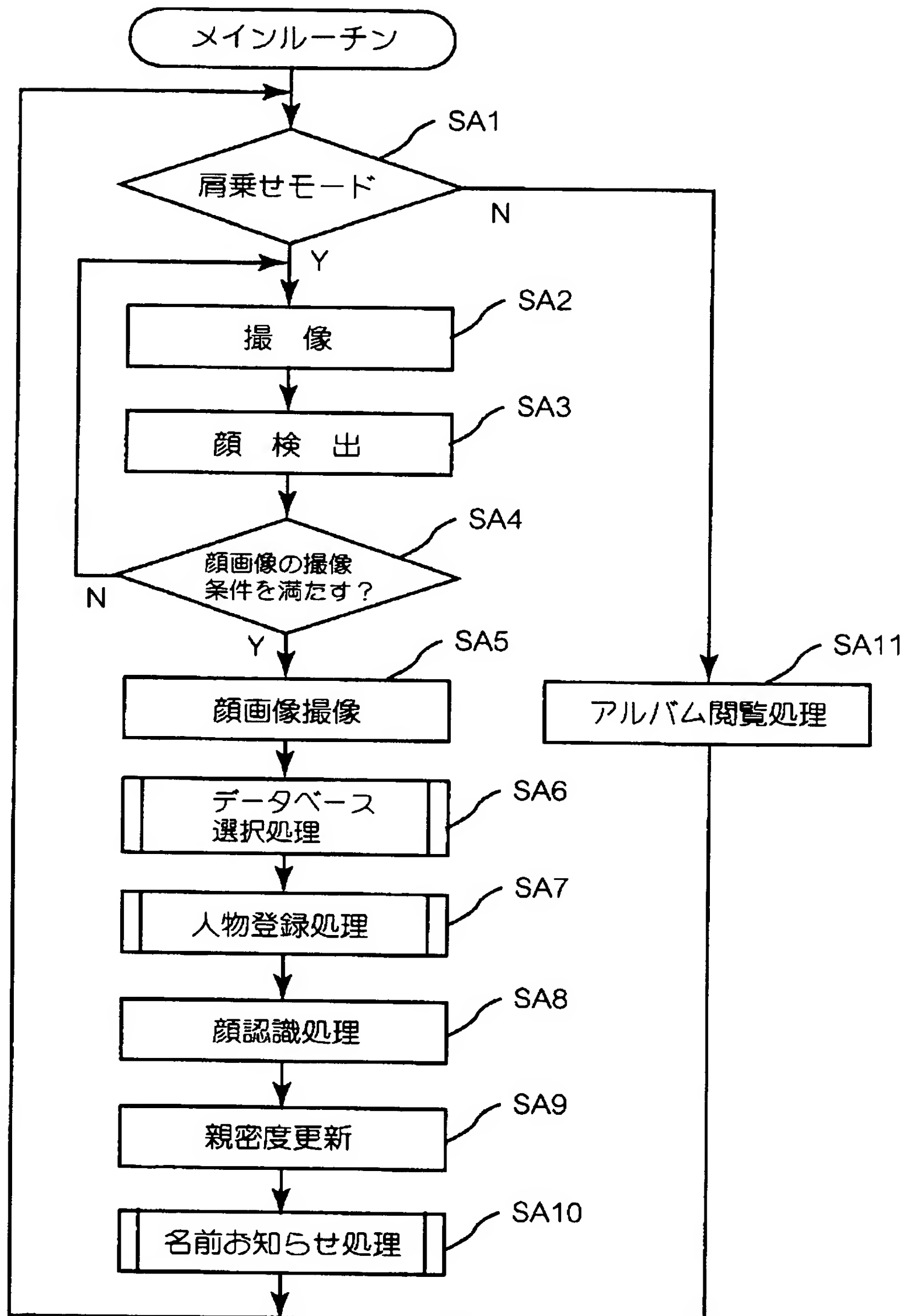


【図 4】

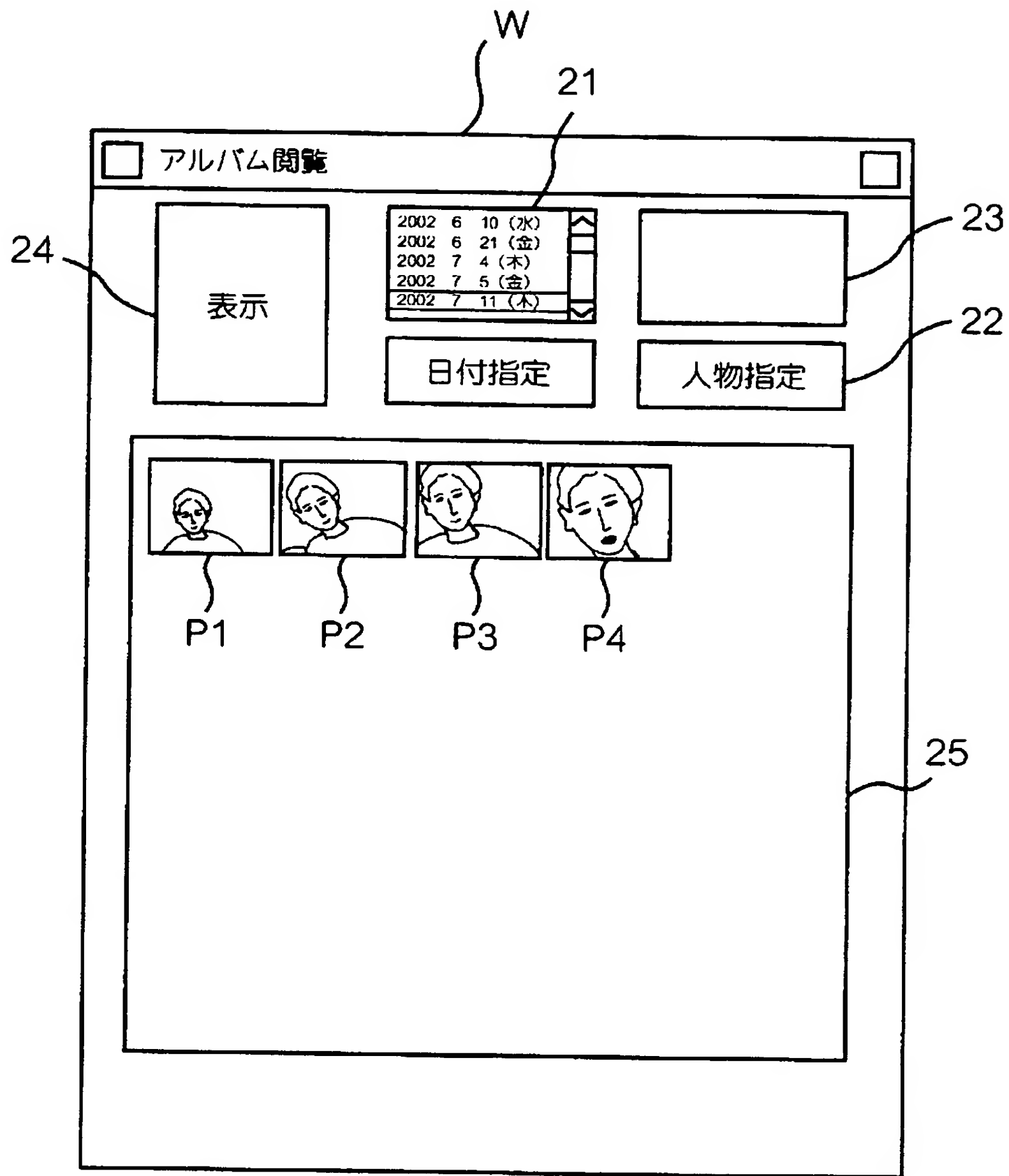


ID	親密度 (0.0 ~ 1.0)	認識回数	顔の大きさ (平均%)
1	0.1	2	40
2	0.4	4	60
:			
11	0.8		
12	0.6		
:			

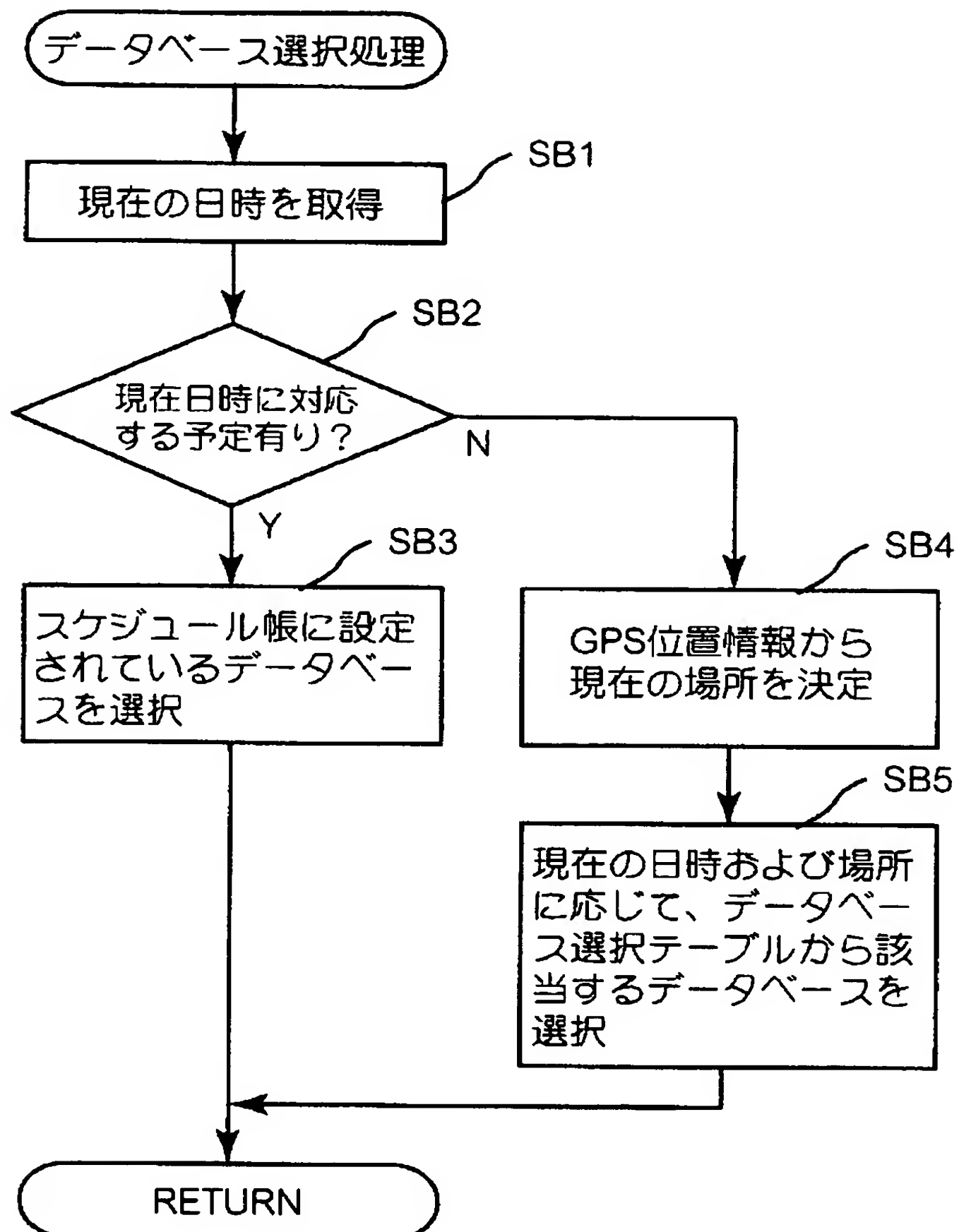
【図 5】



【図 6】

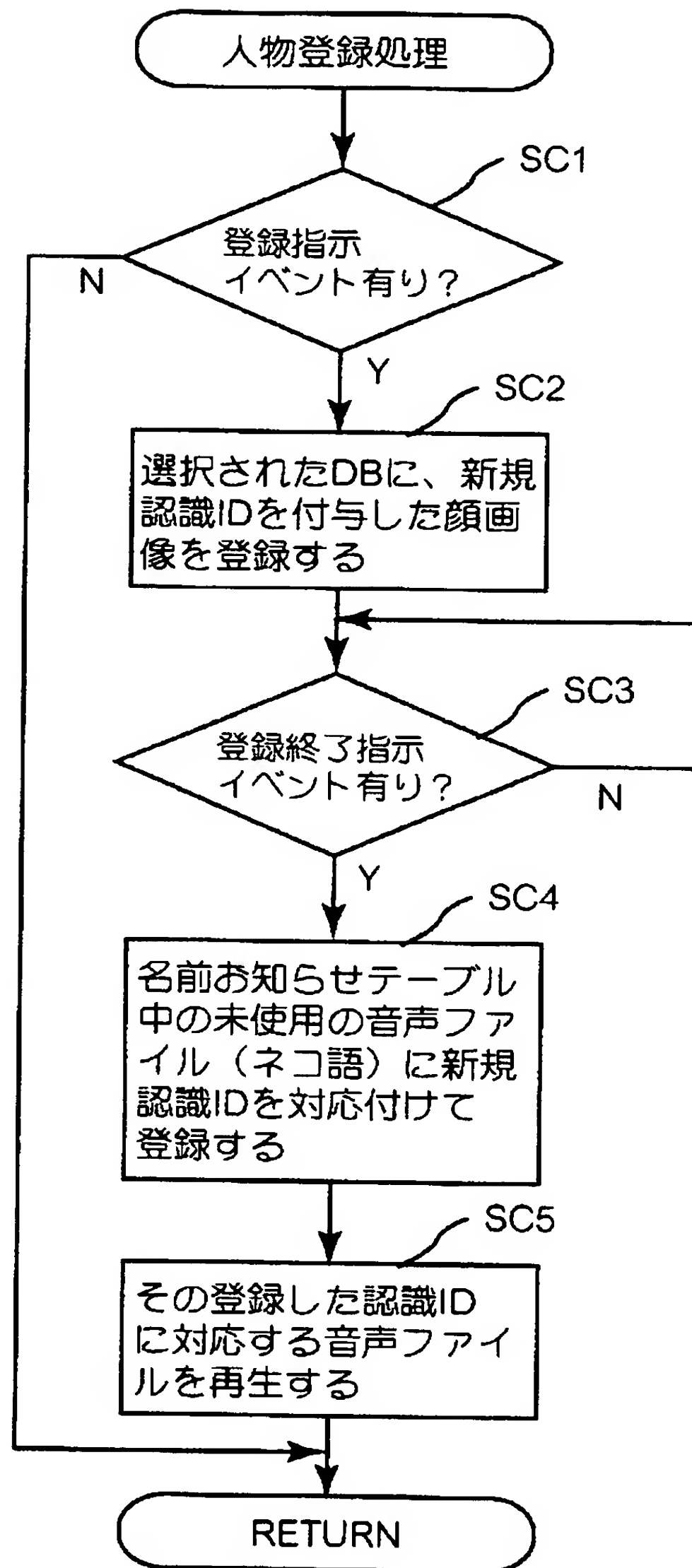


【図 7】

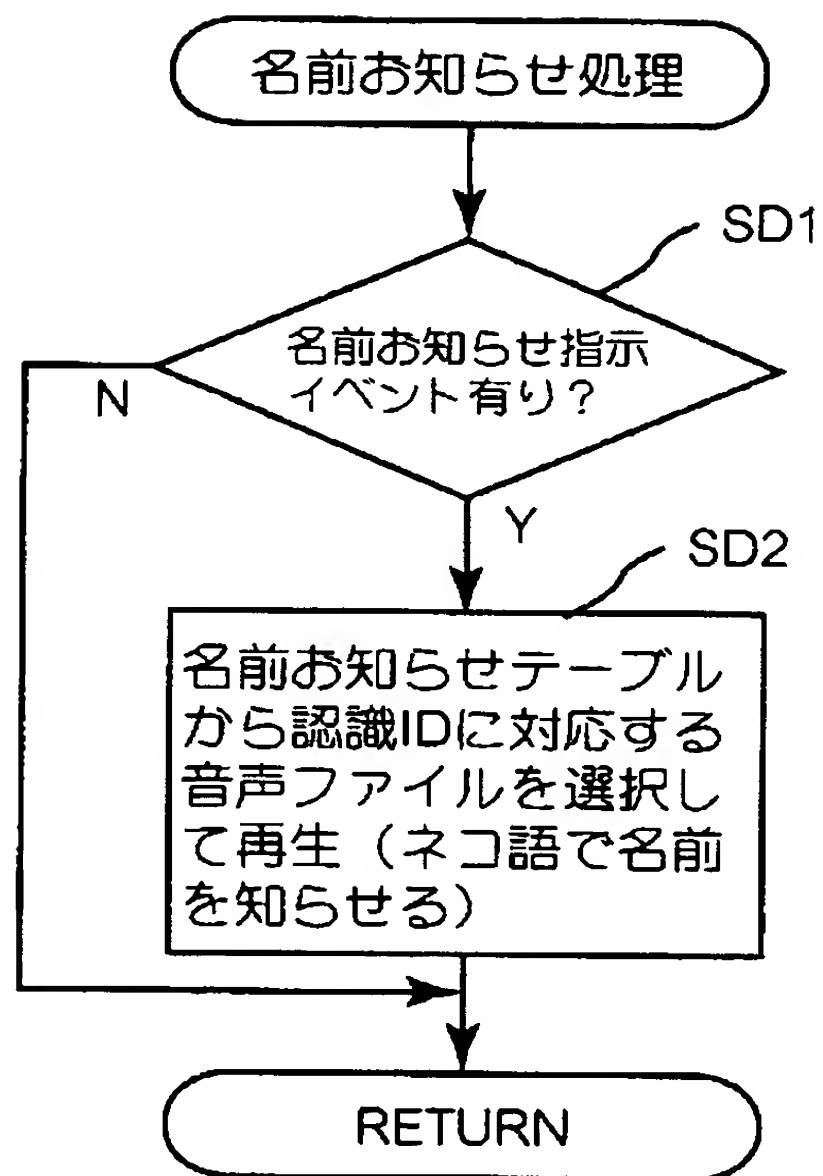




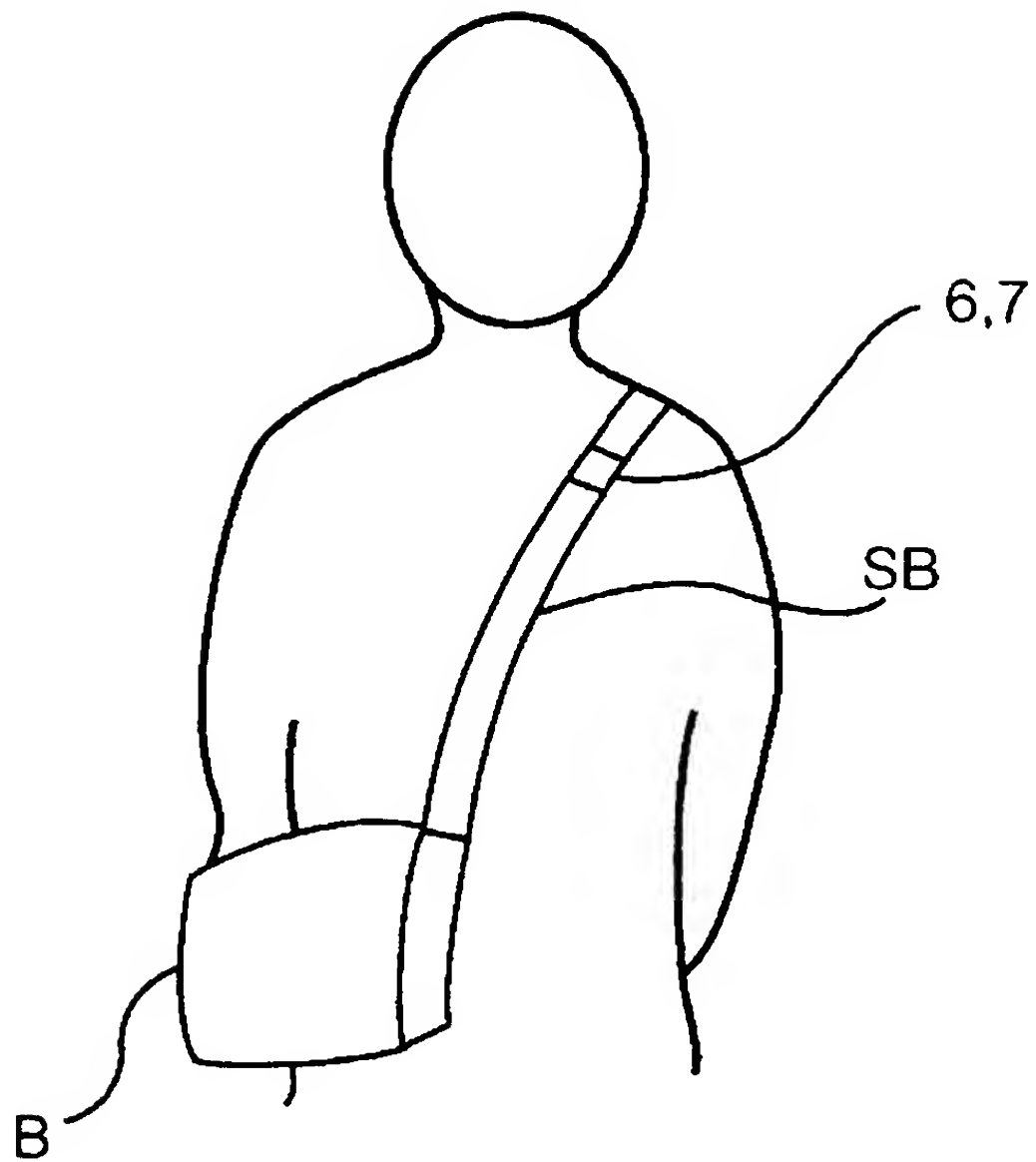
【図 8】



【図 9】

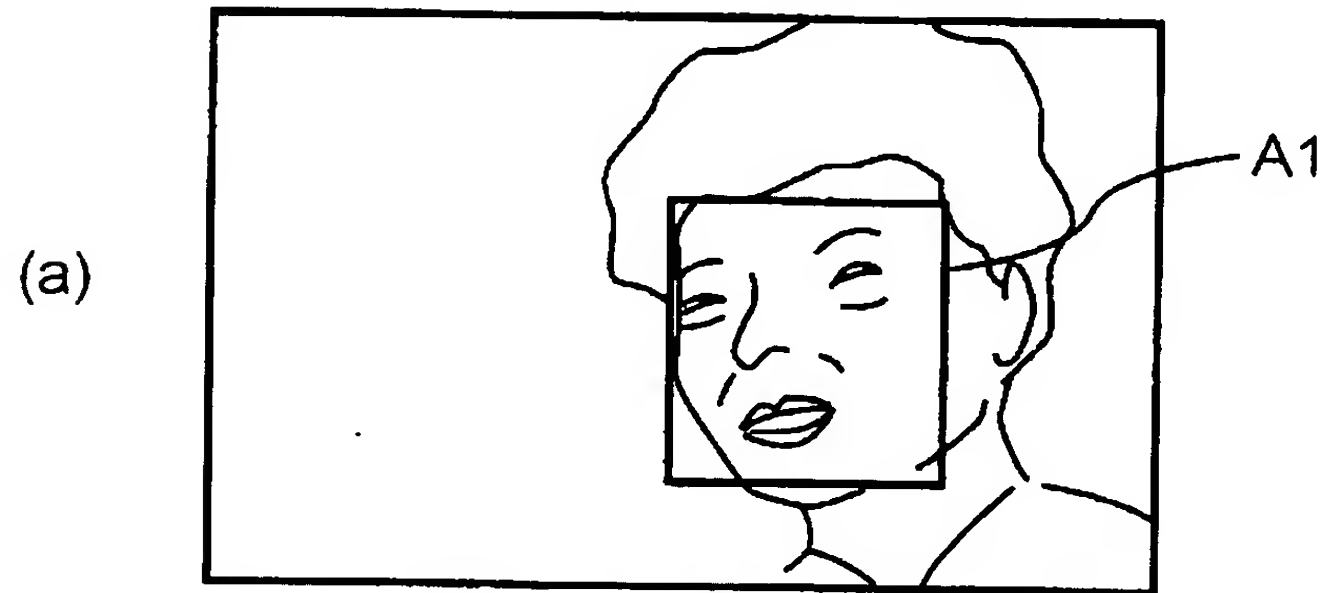


【図 10】

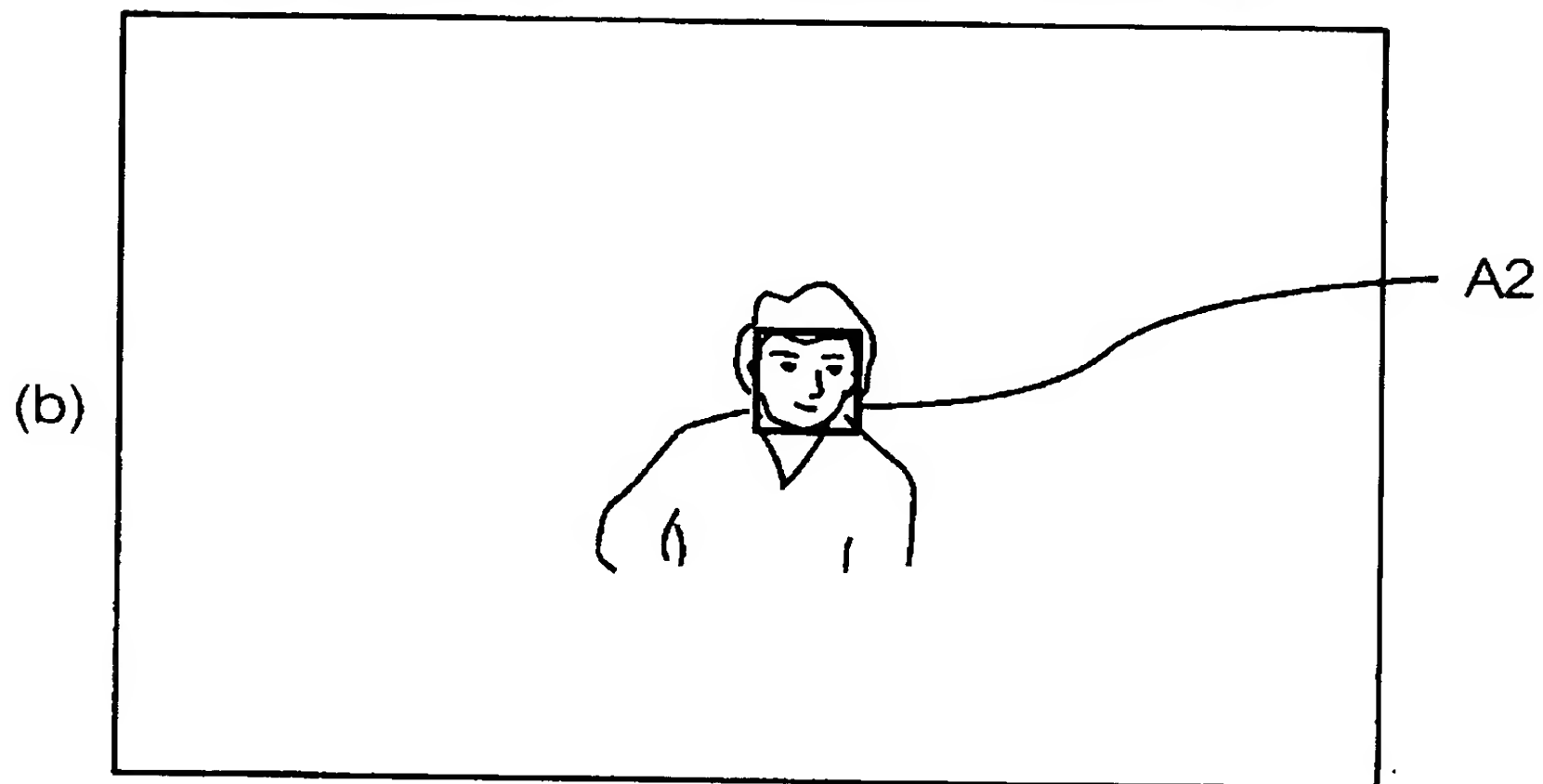


【図 1 1】

・ 顔の領域が大きい→距離近い→親密度高い



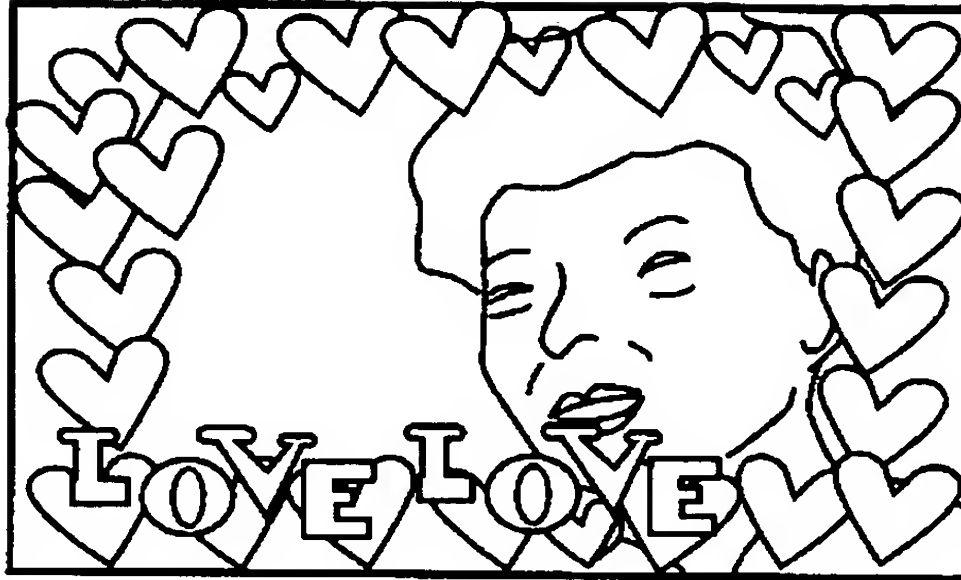
・ 顔の領域が小さい→距離遠い→親密度低い



【図 1 2】

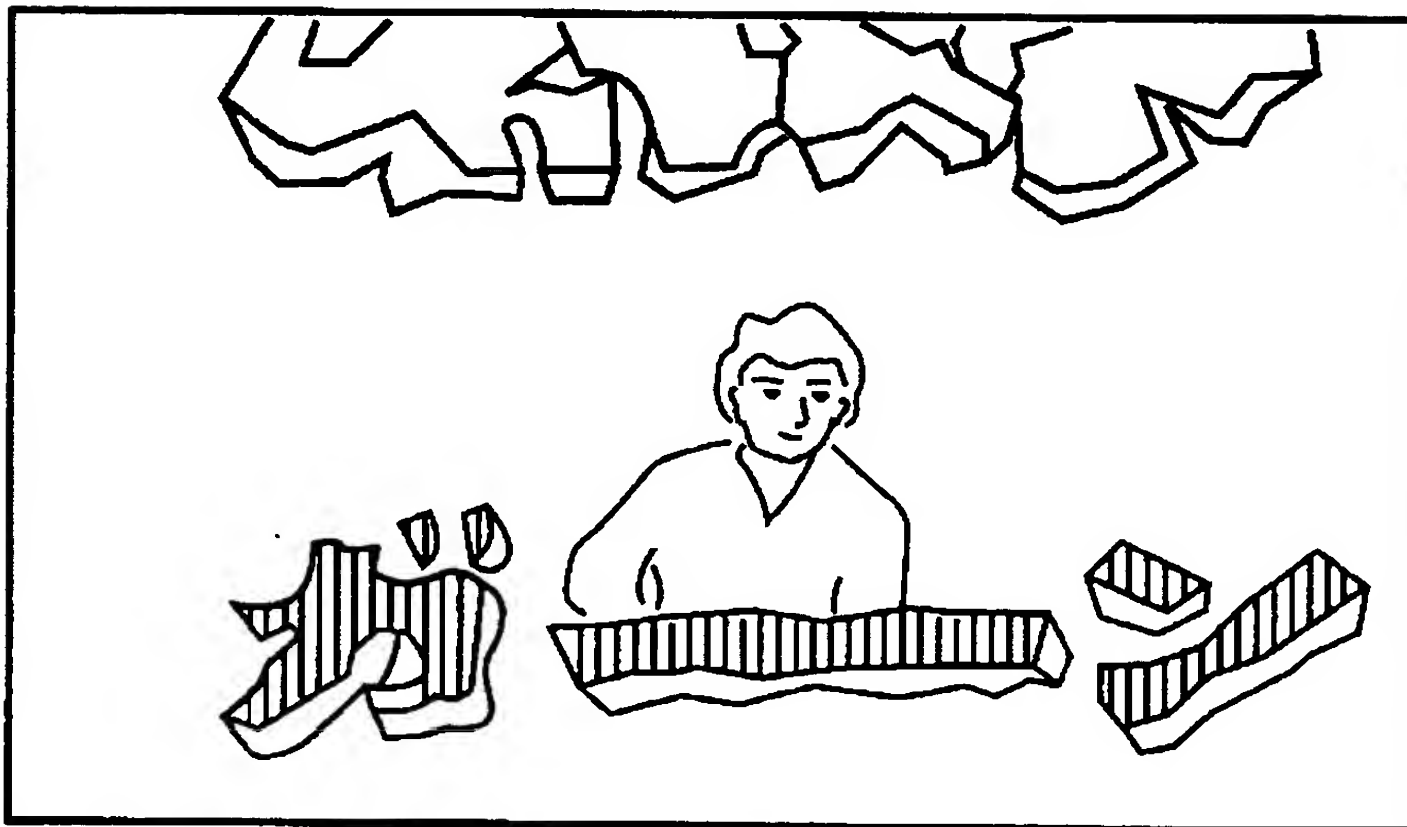
・ 親密度が高い場合

(a)



・ 親密度が低い場合

(b)



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 データベース登録される人数が多い場合でも認識率を向上させることができる顔認識装置、顔認識方法および顔認識プログラムを実現する。

【解決手段】 ユーザの人間関係を、日時あるいは場所などの属性別に分け、各属性に含まれる人物の顔画像をそれぞれ登録した複数の画像データベースを設け、これら画像データベースの内から顔認識する場面に最も適する属性の画像データベースを選択し、選択した画像データベースを参照して撮像画像中に写る顔が誰の顔であるかを識別して人物同定する。この為、データベース登録される人数が多い場合であっても属性別に画像データベースを細分化するから、1つの画像データベース当りに登録される人数を最適化でき、しかも顔認識する場面に最も適する属性の画像データベースを選択して顔認識する結果、認識率が向上する。

【選択図】 図 4

特願 2 0 0 2 - 2 6 7 5 9 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 2 1 8 5 ]

1 . 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名

ソニー株式会社